

秋田県教育委員会（所在地：秋田県）

事業名

秋田県「障害者の生涯学習支援モデル事業」

事業の趣旨・目的

- ・学校卒業後の障害者の学びの場がさらに拡充し、持続可能な体制の構築を目的として関係者が協議する「地域連携コンソーシアム」や本事業の理解啓発のための「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」秋田大会を実施する。
- ・将来的には、全ての県民が、障害の有無にかかわらず学び続けることができ、地域で互いを支え合うことができるような共生社会の実現を目指す。

事業実施体制・連携先

コンソーシアムの構成員…大学教授、障害者就業・生活支援センター長、相談支援専門員、県手をつなぐ育成会長、県特別支援学校PTA連合会長、県障害者スポーツ協会長、障害者アート団体代表、障害当事者、再委託先団体代表者、市生涯学習・障害福祉担当課長、県立特別支援学校長、県障害福祉課長、県教育庁特別支援教育課長

事業内容

- ①関係機関の参画による「地域連携コンソーシアム」の形成
 - ・「地域連携コンソーシアム」の開催（6月、11月、2月）
 - ・委員が得意とする分野や役割を基に協議を重ね、関係機関の連携の強化
- ②障害者の学びの場を継続的なものとするための方策の検討
 - ・県内全市町村教育委員会を訪問しての事業説明
 - ・障害者が地域の公民館講座へ参加できるよう、市町村と再委託先団体の連携及び手立ての検討
 - ・生涯学習講座を継続して実施していくためのモデル講座の実施や仕組みの検討
- ③秋田大学における生涯学習講座の増設
 - ・学校教育法第105条に基づく履修証明書の発行を見据えた新たな学習プログラムの開発（R3：10講座⇒R4：30講座）
 - ・通学できない地域の方も参加できるように、オンライン講習と対面講習とで構成
- ④地域における関係団体・支援者・障害当事者等が参加するコンファレンスの実施
 - ・「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」秋田大会の開催（オンライン）

今年度の取組状況

- ①地域連携コンソーシアムの開催
 - ・各地域から、専門的な知識を有する委員が一堂に会し、同じ目的で話し合うことで、より連携が強化された。
 - ・協議における柱や話し合った内容が、各地域で行われている連絡会でロールモデルとして伝達され、地域での取組の推進に生かされた。
- ②再委託先団体が市と連携し、障害者が公民館講座に参加することができるようなスモールステップでの取組
 - ・地域の公民館での一般講座に、再委託先団体の施設利用者と施設職員とが見学に行ったことで、場の雰囲気慣れ他の参加者と共に参加できるようになった。
- ③秋田大学の生涯学習講座の実施
 - ・計30回の定期的な講座の実施により、参加者の生涯学習講座への所属意識や学びの感覚をもつことにつながった。
- ④「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」秋田大会の開催
 - ・社会教育委員や生涯学習奨励員に呼び掛けたことで、一般の方の参加者が増え、障害者の生涯学習について理解を深める機会となった。

その他研究の詳細など



地域連携コンソーシアム



「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」
秋田大会



R4コンファレンス秋田大会
について（美の国あきたHP）



秋田県生涯学習センター
調査研究